

令和5年度

栄小学校

6年生

地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名： よりよい西東京プロジェクト ～私たちにできること～
(活動名)

ねらい： 地域の特徴や課題を知り、自分たちでできることを話し合い、その解決に向けた探究的な学習の過程において、地域と目的意識をもって関わっていく。また、さまざまな視点で問題を捉え、状況に応じて課題を解決する力を育てていきたい。さらに、地域に貢献する活動を通して、地域への関心を高め、主体的に社会参画して行ってほしいと願い、この単元を設定した。



【6月】

自分たちの身の回りを振り返り、地域の様子について気付いたことを、学習端末を活用しながら、学年間で共有し、意見を出し合いました。人や環境に分けて整理し、話し合い活動を経て、栄小児童も多く利用する「わんぱく公園」に焦点化し、現状を調べに行きました。また清掃活動を行いました。



【9月】

清掃活動から、わんぱく公園のごみの種類や量を体感し、ごみを減らすためにできることを考える中で、「ごみ箱を設置するとよいのでは」という意見が出ました。

そこで、ごみ箱を設置することについてさらに意見を出し合いました。市の公園課の方からの話も取り上げ、多面的に捉えることができました。



【10月】

見つけた課題ごとに、グループを作り、「自分たちができること」という視点で解決策を具体的に考えました。そして、ごみの持ち帰りや安全に利用できるように呼び掛けるポスターを設置したり、ボールゾーンの壁を洗い、的当て用にペイントをしたりしました。



【11月】

6年生の取組が「第2回にしとうきょう環境アワード」で奨励賞をいただきました。また、1月の学校公開で保護者向けに、2月の地域安全連絡会では、地域の方に取組を発信していく予定です。



まとめコラム

公園にごみ箱を設置する問題点を考えたり、現時点で設置していない理由を知ったりすることで、「ごみ箱があると、散らかることは減っても、持ち込む人が増えるから、結局ごみは減らない。」や「ごみの分別が守られなかったり、回収しきれなかったりすることで、よい結果にはならないと思う。」などさまざまな視点で課題を捉える様子が見られました。活動後には、グループごとに報告し合い、自分たちの取組によって、地域をよりよくできたのかを話し合いました。その中で、「自分たちはよいと思って行ったことが、実際はどうだったかわからない。」という意見が多く出されました。そこで、利用する児童や地域の方にアンケートをとり、活動の効果を検証することとなりました。話し合いながら、自分たちが次に何をしたいのか、何をすべきなのかを決めて、学習を進めていく姿から、地域のことを自分事として考え、主体的に地域・社会に関わっていくとする気持ちが高まっていることが伝わってきます。